

授業改善プラン 5年

	児童の実態と課題	取り組みの重点	授業改善の成果と課題
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを文章に表現することが苦手な児童がいる。 ・自分が書いた文を推敲することを嫌がる児童が多い。 ・設問の意図が理解できず、的確に解答できない児童が多い。 ・学習した漢字を日常の中で活用する力に個人差がある。 ・辞書を引く技能がよく定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日直のスピーチや帰りの会の振り返り、発表会など、話す場面を多く取り入れる。 ・ペア→グループ→全体と、話す(発表する)場面の設定を工夫する。 ・各教科の授業での振り返りなどの短い文章や作文の機会を多く設定する。 ・多様な表現の場を設定し、書くことの楽しさを感じることができるようにする。 ・分章に合った表現方法の工夫についても随時指導する。 ・友達との交流を通して、友達や自分の表現のよさに気付くことができるようにする。 ・日常的に音読練習に取り組むようにさせる。 ・設問の意図と、それに対する答え方の基本を理解させる。 ・文章を読んで要約したり、要旨を捉えたりする場面を多く取り入れる。 ・言葉遊びなど、言語への関心を高めるための学習活動を工夫する。 ・漢字ドリルの練習を繰り返し行い、小テストなどをこまめに行っていく。 ・作文の学習や日常の学習活動の中で、漢字を使うことを意識付けしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ、ペアでの伝え合い、小グループでの話し合いを重ねることで、少しずつ自分の考えや思いを伝えることができるようになってきた。 ・「作文ファイル」などにも取り組み、作文への抵抗感は少し少なくなっているが、継続的な指導が必要である ・家庭の協力も得ながら、音読練習を行った。 ・問いの文をしっかりと読まないために問題に正対できない児童もいる。 ・漢字練習とその確認テストのサイクルを明確にして行ったことで、児童は計画的に学習をすることができた。 ・漢字の定着に個人差があり、既習の漢字を普段から使うことができない児童も見られた。 ・日常的に音読や読書に取り組むことで、文章に対する抵抗を減らし、語彙量を増やすことができた。 ・読解力に個人差がある。

<p>社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識量、理解度に個人差がある。 ・資料を正確に読み取る力が不十分な児童もいる。 ・方角、都道府県の位置などの知識が身に付いていない児童が多い。 ・学習したことが、生活経験やよりよい社会の形成への参画という視点につながるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器の効果的な活用や、体験的活動を重視して、より深い知識理解の定着を図る。 ・表やグラフなどを読み取る場面を多く設定し、読み取り方の細かい指導を行う。 ・本やインターネットを利用して、資料を収集・活用する学習場面を設定する。 ・授業内容に関連する方角や都道府県の位置についてはその都度確認する。また、宿題で繰り返し学習させることで、知識の定着を図る。 ・社会事象について取り上げる機会を増やし、自分なりの視点がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機や「NHK for school」の放送番組などを効果的に利用し、児童の興味関心を高め、より深い知識理解の定着を図ることができた。 ・総合の「米作り体験」、「工場見学」などの体験活動が実感を伴った理解につながった。 ・本やコンピュータなどを活用して調べ学習を行い、新聞などにまとめることができた。 ・地図帳を活用しながら、都道府県の位置について、繰り返し学習することで、少しずつ定着が見られる。
<p>算数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組む児童が多い。 ・基礎的な四則演算に課題がある児童が多い。 ・自分の考えをノートにまとめることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリル等を全校算数や授業、宿題に取り入れる。 ・ノート指導を充実させる。ノートに書くことが苦手な児童には、ノートに貼るプリントを用意し、全員を授業に参加させる。 ・授業中に友達との意見交流の場を多く設け、多様な意見を知る中で、考え方を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、基礎的な学習内容の定着が進んできたが、常に復習を視野に入れて指導にあたる必要がある。 ・算数が苦手な児童にとってノートにプリントを貼るなどして、視覚的にも問題を捉えやすくし、問題に向き合えるようにした。ノートに貼るプリントなしでも、自分のノートに学習内容をまとめられる児童が増えた。

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に興味をもち、意欲的に取り組む児童が多い。 ・すすんで実験・観察に取り組むが、予想・推論したり、結果から考察したりすることが苦手な児童がいる。 ・科学的な言語を用いた知識の定着が十分でない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭で学習課題を明確にし、予想を立てて、実験に取り組ませる。学習のパターンを定着させ、理解を図る。 ・顕微鏡や天秤ばかりなど実験器具を扱う時間を増やし、だれでも扱えるようにする。 ・結果を学習課題と結び付けて考察し、科学的な思考を伸ばす。観察記録の基礎的スキルを繰り返し指導する。 ・実験結果を学級全体で考察するために、小グループの結果を学級全体に見えるように工夫する。 ・日常生活と学習の知識が結びつくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具をたくさん用意して、少人数で実験を行うことにより、一人一人が器具を扱う機会をより多くもつことができた。 ・実験や観察の時間をとり、どの子もすすんで参加できるようにしたことで、実感をもって結果の考察ができるようになった児童が増えた。一方で、結果をもとにした考察をする力に差がある。実験や観察の内容が理科的思考につながるように指導を工夫する必要がある。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱は皆で声を合わせて歌うことに意欲的に取り組んでいる。 ・器楽も、意欲的に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱曲にもたくさん取り組み、様々な旋律が重なるよさを感じ取り、豊かな響きを味わいながらさらに歌う楽しさの幅を広げていく。 ・個別指導をたくさん取り入れ、一人一人が基本的な奏法を確実に身に付け、演奏経験をさらに増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各パートの動きや役割を感じ取りながら、より豊かな表現ができるようになってきている。さらに様々な楽曲に取り組むことを積み重ねて合唱のよさをさらに味わえるようにする。 ・個別に指導することで基本的な奏法は確実に身に付いてきた。他の楽器への応用もできるようにさらに様々な経験を増やしていく。

<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動に関して、興味、関心が高く、意欲的に取り組む事ができる。自分の思いが作品の中に豊かに広がる。 ・鑑賞では、さまざまな作品に興味をもって楽しく観ることができる。友達の話をよく聞き、関心をもって作品を観ることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材・題材の提示により、児童の興味を引き出し、見たこと感じたこと想像したことを平面・立体作品に表すことができるようにする。 ・様々な作品の鑑賞を通してギャラリートークをして鑑賞活動を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある素材や表現方法を紹介し取り組むことによって、造形活動への関心が高まり興味深く作品に取り組むことができた。さらに見たこと感じたこと想像したことを自分の中で、イメージして構想をたて、意欲的に作品に取り組むことができた。 ・青海市美術館での鑑賞教室で様々な作品の鑑賞を通してギャラリートークをきっかけとして鑑賞活動が深まった。さらに友達のよさを認めることができ、互いに高まりあうことができた。
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味、関心が比較的高く、特に調理実習にはすすんで取り組む。 ・基礎的な知識は身に付いている子が多いが、技能面では経験の差も影響して個人差が大きい。 ・技能や学習したことの日常生活における活用に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習シート等での振り返りの時間を大切にし、次の活動につなげられるようにする。 ・意識的にグループ学習を取り入れ、お互いに教え合いながら、技能の向上を図る。 ・学習したことを家庭の中で実践できるように言葉かけをする。また、長期休業での課題とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫や調理実習等の実技を通して、少しずつ技能が高まった。教え合う姿勢も多く見られるようになった。 ・長期休業中に家庭での手伝いを宿題として課題にすることで、自分を振り返ることができ、さらなる意欲の向上が見られた。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きで、運動に意欲的に取り組む児童が多い。 ・運動領域によって苦手意識があり、すすんで取り組めない児童がいる。 ・互いに協力して学び合い、高め合う姿勢に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動に取り組ませ、基礎的な技能を身に付けさせるようにする。 ・学習カードや掲示物を効果的に活用し、一人一人がめあてを明確にもって学習に取り組む、学習を振り返ることができるようにする。 ・互いの協力が必要になる課題を設定し、積極的な学び合いを促す工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「NHK for school」の放送番組、児童の実技手本を効果的に利用し、興味関心を高め、技能面において、技のイメージの向上を図ることができた。 ・カードの活用等により、記録の向上を目指して、意欲的に取り組む姿が見られた。